

## 5 英 語

### ( 1 ) 調査結果の概要

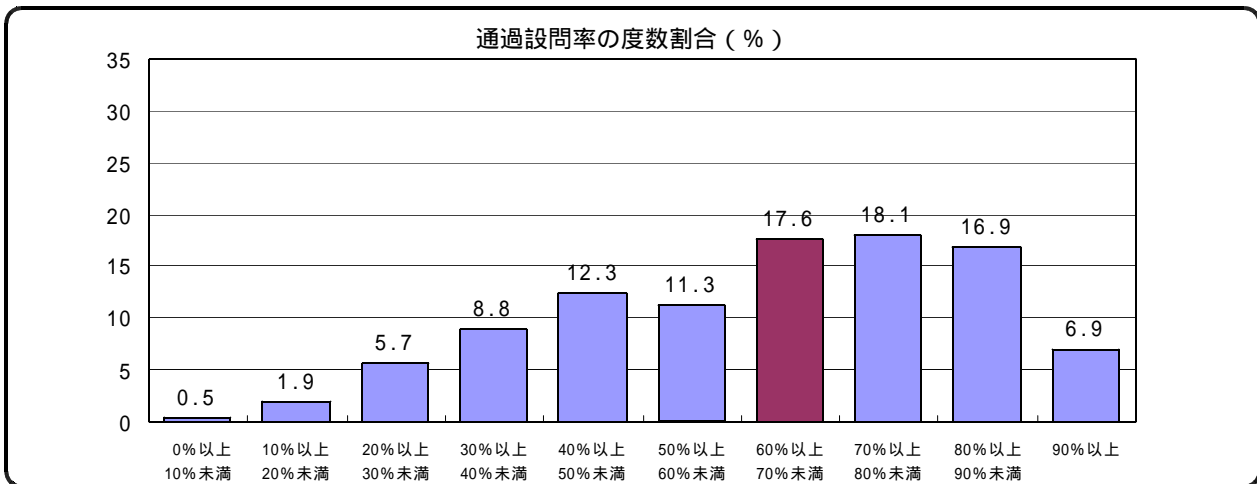
	受検者数(人)	平均通過率(%)	通過設問率が60%以上の生徒(%)
英 語	2142	60.9	59.5

おおむね良好

- ・ 質問や許可を求める英文を聞いて、適切に応じること。
- ・ 英文を聞いて、内容を把握する上で大切な単語を聞き取ること。
- ・ 対話の流れに沿った適切な英語の表現を理解すること。

不十分又はやや不十分

- ・ 英語の文構造を理解し、正確な語順で書くこと。
- ・ ある程度のまとまりのある長さの英文で自分の考えを表現すること。

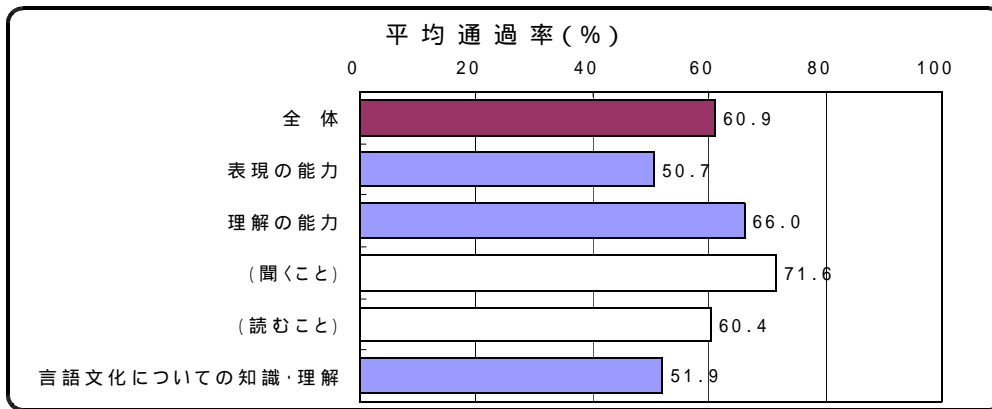


英語では平均通過率が60.9%である。平均通過率の含まれる度数域の一つ上の度数域が最高値になっており、全体に右寄りの山の形であることから、総じて基礎的・基本的な内容についての理解はおおむね良好であると考えられる。

### ( 2 ) 学力観点別状況の分析・考察・指導のポイント

#### 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

学習実態調査をみると、勉強が生活の中で役に立つかという問いに対して、肯定群の割合は76.5%である。しかし、英語が好きかという問いに対しては、肯定群の割合が53.0%にとどまっている。授業の中で、生徒が英語を学ぶ楽しさを実感できるように学習活動の工夫を行うことが必要である。また、間違えることを恐れず自分の考えなどを英語で話しているか、相手に英語が理解してもらえないときには、別の語句や表現に言い換えたり説明して伝えたりするなどの工夫をしているかという問いに対して、肯定群の割合が、それぞれ34.4%、35.2%にとどまっている点は課題である。生徒が間違いを恐れずに英語を話したり書いたりできる授業づくりの工夫や、教師が受容的な姿勢で授業に臨み、友達の間違いを嘲笑しないクラスの雰囲気づくりに心がけることが大切であると思われる。また、積極的に自分の考えを相手に伝えようとしたり、別の表現に言い換えて会話を継続し発展させていこうとする態度を育てるためにも、指導内容と指導方法の見直しと工夫が求められる。



#### 「表現の能力」

表現の能力をみる問題については、平均通過率が50.7%であることから、指導の見直しが必要である。特に、文構造理解問題、条件指定問題、トピック指定問題については、不十分な結果となっている。表現の能力を支える基本的な文構造の定着を図るためには、基本的な文型・文法事項の口頭練習を十分に行い、実際に使用する場面を想定した言語活動に取り組むことが必要である。さらに、既習の言語材料を複数組み合わせさせて使うことが求められるような課題を工夫することも大切である。また、自分の考えを文のつながりや構成を考えて書く問題においては、平均通過率が41.0%のうち正答率が30.2%であり、その中には論理的思考力の高い文章も多かった。反面、無解答率が30.5%と高くなっている点は課題である。今後の指導においては、生徒の興味や関心の高いトピックを選択し、Speech や Show and Tell のような「話すこと」の活動と関連させた「書くこと」の活動を通して、表現することへの意欲を喚起する指導が必要である。その際、自らの考えに基づき、文と文とのつながりを考えながら、まとまりのある一定量の文章を書くことができるよう段階を踏んだ指導の改善が求められる。

#### 「理解の能力」

理解の能力をみる問題は、平均通過率が66.0%である。話し手の質問や依頼などに対して適切に応じる問題、聞いた内容について正しく聞き取る問題、まとまりのある英語の内容について正しく聞き取る問題の平均通過率は71.6%であることから、「聞くこと」によって正しく内容を把握し適切に応じる技能の実現状況は、おおむね良好であると考えられる。正しく聞き取る力をさらに定着させるためには、現実的な場面を想定して、その場面に応じた最も自然な応答表現を行う指導、会話を継続し発展させるような表現や技法が身に付く指導、自然な口調で話される英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る指導の工夫が大切である。このような指導を通して、これまで学習した言語材料を用いて互いに話したり書いたりする活動へと発展させていくことが求められる。一方、書かれた内容について読み取る問題の平均通過率が60.4%にとどまっている点は課題である。特に「読むこと」の指導に当たっては、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとすることを読み取る場を設定し、それを意識しながら言語活動を行うことが大切である。

#### 「言語や文化についての知識・理解」

言語や文化についての知識・理解をみる問題は、平均通過率が51.9%であり、指導の見直しが必要である。特に「書くこと」の文構造理解問題と「読むこと」の言語使

用に関する知識理解問題は不十分な結果となっている。言語使用に関する知識については、文法的に誤りではないが、言語使用の慣習に照らして適切な表現であるかどうかを選択するための知識が十分身に付いていないと考えられる。今後の指導においては、生徒が興味や関心を喚起するような場を設定し、話したり聞いたり、読んだり書いたりする言語活動を行いながら、言語使用に関する知識、文と文とのつながり、文構造などに関する知識の定着を図るための指導の工夫が求められる。また、生徒が適切に応じるための表現を習得するためには、電話や手紙などの具体的な使用場面を設定し、実際に生き生きと表現活動を行う中で、継続的に言語や文化についての知識を身に付けていくような指導が効果的であると考えられる。

(3) 設問別の分析・考察・指導のポイント

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		表現の能力	理解の能力	知識・理解		
1	(1)	聞くこと・応答				93.2	<p>実際の日常生活の中で行われる相手からの英語の話しかけを聞いて、その意図を正しく理解し、適切に応じることができる。</p> <p>(1)(3)の通過率は、93.2%、76.0%であり、where, who などの wh-疑問文に対する応答はおおむね定着していると考えられる。(2)の通過率は69.8%であり、May I ~? に対する肯定の答えが Sure. であることはおおむね定着していると考えられる。誤答として選択肢(ア)Yes, I can. を選んだ生徒が14.8%、選択肢(イ)Yes, you are. を選んだ生徒が12.0%いる。これは、許可を与える表現を、日本語の「はい」から連想して選択したからだと思われる。(4)は、疑問文の形式の質問に対して応答するのではなく、相手の話しかけの内容 I want to ~. に対して応答する問題である。通過率は27.6%と低く、誤答として選択肢(イ)Yes, I do. を選んだ生徒が46.2%いる。これは話しかけの内容に対して、選択肢(イ)が「いいよ」という意味内容であるととらえたからだと考えられる。</p> <p>1年生の段階から現実的な場面を想定し、Did you ~? に対して Yes, I did. / No, I didn't. で答えるなどの単純な言語形式だけではなく、場面に応じた最も自然な答え方についての指導を進めることが大切である。また、Oh, do you? や Is it? のように会話を継続し発展させるような表現や技法が身に付く指導が必要である。このような表現が定着するまでは様々な場面を設定して練習していくことが大切である。</p>
	(2)					69.8	
	(3)					76.0	
	(4)					27.6	
2	(1)	聞くこと・詳細理解				75.4	<p>絵を見ながら英文を聞いて、絵の内容と合った英文を選択できる。</p> <p>(1)(3)の通過率は、75.4%、93.5%であり、おおむね定着していると考えられる。これらの問題はキーワードとなる単語が聞き取りやすいため、通過率が高いと思われる。特に、(3)については、on や under の意味は十分理解できていると思われる。(2)では、thirty を選んだ生徒が68.9%いる一方で、誤答である選択肢 thirteen を選んだ生徒が20.6%いる。標準的な発音や語における基本的な強勢の区別ができていないためである。正しく聞き取るためには、英語の音声に関する基本的な学習が重要である。現代の標準的な発音、語と語の連結による音変化、語・句・文における基本的な強勢、文における基本的なイントネーション、文における基本的な区切りの五項目について十分指導する必要がある。そのためには、基本的な語彙を正しく発音する練習と、話し手の気持ちや状況・場面によって強勢やイントネーションなどが変化することを理解し、様々な状況に慣れた上で、内容を聞き取る練習を反復的に行う必要がある。</p>
	(2)					68.9	
	(3)					93.5	
3	(1)	聞くこと・概要・要点理解				93.0	<p>ある程度のまとまりのある長さの英文を聞いて、話される場面や状況をとらえ、概要や要点をつかむことができる。</p> <p>(1)の通過率が93.0%と高いのは、生徒の日常生活と結びついた内容であるため状況を想定しやすく、最後にキーワードがあるため要点をつかむことが容易であったからだと考えられる。(2)は買い物場面の会話であり、通過率は44.7%と低い。誤答として選択肢(I)を選んだ生徒が40.2%いるのは、We have some pencils. の情報を把握できなかったからだと考えられる。つまり、複数の情報を把握しきれず、特定の情報にとらわれすぎたことが誤答の要因である。(3)の通過率は73.4%と高いが、</p>
	(2)					44.7	

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント	
大問	小問		表現の能力	理解の能力	知識・理解			
	3	(3) 聞くこと・概要・要点理解				73.4	誤答として選択肢(ウ)を選んだ生徒が17.7%いる。これは、話された英語の中で強調された English, teach という単語が耳に残り、(ウ)を選択したからだと考えられる。一部の単語にとらわれ、概要把握ができなかったことが誤答の要因である。複数の情報を含んだ、ある程度まとまった長さの英文を聞いて、内容把握をする場を普段から設定する必要がある。例えば、教科書のテープや、教師やALTが話す自然な英語を聞く場を設定し、聞き取ったことを発表したり、リスニングのポイントを与えて、英語の音声から内容を理解していく指導に努めることが重要である。	
4	(1)	書くこと・文法事項理解				1	47.5	基本的な文法事項を理解している。(1)の通過率は47.5%と低く、誤答として選択肢(ウ)Was it を選んだ生徒が21.6%、選択肢(I)Were you を選んだ生徒が22.7%いる。(ウ)を選択したのは、英文の中で用いられている It was の言語形式に引きずられたからだと考えられる。また、(I)を選択したのは、話された内容の last week から過去形であることは理解しているが、一般動詞 go の過去の疑問文に Did を用いることが理解できていないからだとと思われる。(3)の通過率は66.6%であるが、誤答である選択肢(イ)There are の反応率が17.3%ある。これは、話された英文の中で用いられている are there の言語形式に引きずられ、英文の意味内容をとらえることができなかったからだと考えられる。機械的な応答練習だけではなく、話し手の意図や意味内容をとらえた練習の場を設定していく必要がある。実際の場面を想定し、質問に応じる際、返答に自分の思いや考えを付け加えることなどを指導していくことが大切である。その際、自分が話した英語を正しく書く指導を行うことも考えられる。また、動詞の時制については、3学年間にわたり、言語活動の中で様々な状況のもと、使用する機会を継続的にもつことにより、一層定着を図ることができる。
						2	68.3	
						3	66.6	
						4	79.1	
(2)	1	書くこと・文構造理解				1	4.6	与えられた単語で、語順正しく書くことができる。(1)の通過率は4.6%と非常に低い。誤答として多かったものは、What does your mother like food? や What does your mother food like? のように、food が文末や動詞の前にきているものである。誤答として what を文頭に選んでいる生徒も多いので、疑問詞 what については理解できていると思われるが、what + 名詞の用法はあまり定着していないと考えられる。(2)の通過率は22.8%と低く、誤答として I practice で英文を書き始めている生徒が多く見られる。これは、話された英文の中で用いられている動詞 practice に引きずられ、意味内容をとらえることができなかったからだと考えられる。また、to started, started it to のような誤答をしている生徒が多く見られ、不定詞の用法はあまり定着していないと思われる。文構造を理解し、正確な語順で書くことの定着は不十分である。基本的な文型・文法事項の習熟を図るためには、口頭練習を十分に行い、実際に使う場面を想定して言語活動を行う必要がある。特に、既習の文型・文法事項は、授業の中で教師が積極的に使用したり、生徒が繰り返し使用する場を設定するなどして、継続的に指導を行う必要がある。また、文法や語順について日本語と英語の違いに気付かせるような指導も必要である。
						2	22.8	

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		表現の能力	理解の能力	知識・理解		
4	(3)	1	読むこと・ 言語に関する知識理解			53.2	<p>会話の中の欠落した一文を、言語や文化に関する知識をもとに選択することができる。</p> <p>(1)は電話での応答場面で、通過率は53.2%である。誤答として選択肢(ア) I'm Yuka. を選んだ生徒が39.4%おり、電話での英語特有の表現が十分定着できていないと考えられる。(2)の通過率は32.3%と低く、誤答として選択肢(ウ) Yes, I do. を選んだ生徒が47.4%いる。これは、話された英文の中で用いられている Do you ~? の言語形式に引きずられ、話し手の意図を的確にとらえることができなかったからだと考えられる。また、then wait for dinner の意味内容が十分把握できなかったことも要因であると思われる。</p> <p>実際の場面を想定して、動作をつけて表情豊かに言語活動に取り組むことが、生徒の興味・関心を喚起し、定着をうながすことにつながる。また、教科書をもとに生徒自身が独自の会話を作成・発表したり、場面設定をしたスキットを作成・発表したりするなど、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わいながら、言語使用の慣習に関する知識を身に付ける必要がある。</p>
		2					
5	(1)	読むこと・ 詳細理解				60.2	<p>ある程度のまとまりのある長さの会話文を読んで、その内容に合った絵を選択できる。</p> <p>この詳細理解問題は、必要な情報を読み取り正答を選択するもので、全体の内容を把握しないと答えられない問題である。(1)の通過率は60.2%であり、誤答として選択肢(イ)を選んだ生徒が22.3%いる。これは設問を注意深く読んでいないか、会話文の詳細を理解することができず、一部の単語や文章をもとに解答したためだと考えられる。(2)では、誤答として選択肢(ア)を選んだ生徒が20.5%いる。これは、最後の文 She put them on the table when she played the piano. の意味内容が理解できなかったことが要因であると考えられる。</p> <p>場面設定のある、ある程度まとまった英文の内容を読み取る場を設定し、必要な情報をより適切に正確に読み取っていく指導をすることが必要である。</p>
	(2)					67.3	
6	(1)	1	読むこと・ 概要・ 要点理解			73.0	<p>ある程度のまとまりのある長さの英文を読んで、その概要や要点をとらえることができる。</p> <p>(1)の通過率は73.0%であり、質問の答えを文中から導きやすいため通過率が高いと思われる。(2)の通過率は64.9%で、誤答として選択肢(イ)を選んだ生徒が17.4%おり、(3)の通過率は57.8%とやや低く、誤答として選択肢(ア)を選んだ生徒が16.1%、選択肢(イ)を選んだ生徒が17.0%いる。これらは、文章全体の概要を的確に把握できなかったことが要因である。</p> <p>ある程度の長さをもった英文を読む際、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の伝えようとすることを読み取る指導が必要である。例えば、リーディングのポイントを与え、大まかな流れをつかみながら読み取ったり、要点を的確にまとめたりするなどの指導を継続的に行う必要がある。また、読んだり聞いたりしたことを簡潔にメモしていく力を育てることも大切である。</p>
		2				64.9	
		3				57.8	
	(2)		50.5	<p>英語で書かれた内容について、正しく読み取ることができる。</p> <p>(2)の通過率は50.5%である。誤答として選択肢(ア)を選んだ生徒が15.3%、(イ)を選んだ生徒が20.7%いる。これは(ア)(イ)の内容に類似したことが文中に書かれているためである。正答(イ)の内容は、直接、文中に書かれていないため、文章全体の流れから読み取らなければならない。文章全体によって示される概要や要点を正確につかむ指導の改善が求められる。</p> <p>物語や説明文などを読む際、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問をしたり、また、設問の仕方を工夫したりするなどして、話の流れや大切な部分を読み取る指導を行うことが必要である。</p>			

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		表現の能力	理解の能力	知識・理解		
7	(1)	読むこと・ 談話構造理解				78.9	対話文を読んで、前後の文脈から欠落した文を選択することができる。 (2)の通過率は66.1%である。これは、It was の言語形式に引きずられ、話し手の意図や英文の意味をとらえることができなかったためである。このことが、誤答である選択肢(ウ)Was it interesting? の反応率が11.1%、(I)How was it? の反応率が14.6%という結果を引き起こしている。 対話の流れや場面に応じた適切な表現を選択できるように、具体的な言語使用場面を設定して、生徒に言語活動を行うよう指導することが大切である。
	(2)		66.1				
8	(1)	書くこと・ 条件指定				68.0	指定された内容を英語で書くことができる。 (1)の通過率が68.0%と、条件指定の問題の中で一番高いのは、生徒にとって身近なスポーツに関する内容であり、授業での使用頻度が高い動詞で表現できるため、比較的書きやすかったからだと考えられる。一方、(3)の通過率がやや低いのは、使用する動詞が(1)(2)に比べ、定着していなかったからだと思う。誤答例としては、過去形への変換がなされていないものや過去進行形が正しく書けていないものが多く見られた。 無解答の生徒が、(1)は18.7%、(2)は24.2%、(3)は27.2%いる。これは、絵に描かれた内容を英語で表現できないだけでなく、間違えることを恐れて英語を書こうとしないことも大きな要因であると考えられる。生徒が間違いを恐れずに英語を話したり書いたりできるようになるためには、教師の共感的な姿勢や小さな成長を認め励ます態度、また、友達の間違いを嘲笑しないクラスの雰囲気づくりなどが求められる。 「書く内容」を与え、より適切で正確な表現が使えるようになることを目標とした言語活動を行うことが必要である。例えば、「電話の伝言メモを書く」「手紙を書く」「日記を書く」などのように具体的な状況のもとで、読み手を意識して、大事なことを落とさずに書く活動を数多く行うことが必要である。その際、まず口頭で英語を話し、それを書くという学習の積み重ねが大切であり、そうすることにより、「書くこと」も容易になると考えられる。
	(2)		57.5				
	(3)		51.3				
9	(1)	書くこと・ トピック指定				41.0	与えられたトピックについて、書くべき内容を自分で考えて、それを英語で書くことができる。 「将来の夢」という生徒が書きやすいトピックであるため、意欲的に書こうとしている解答が比較的多く見られた。通過率41.0%のうち、3文以上書いてあって内容のつながりのある正答は30.2%あり、その中には論理的思考力の高い文章も多かった。一方、一文だけしか書いていない解答が6.3%、無解答が30.5%あることから、生徒が自分で考えたり感じたりしたことを書く能力を育成する指導の見直しが求められる。特に、内容のつながりという観点から見ると、話題が絞られていないもの、話題の発展性のない英文の羅列、日本語の語順の影響を受けたものなどが多く見られ、文と文とのつながりを意識して順序立てて、自分の考えや気持ちを表現する指導が求められる。 普段から身近な人々やものについて、ある程度まとまった内容の「話すこと」や「書くこと」の言語活動を繰り返して行うことが重要である。その際、小さなミスよりも、話題を発展させていくことに焦点を当てた学習活動が必要である。また、無答率が高いことから、書きやすいトピックや生徒のニーズに合ったトピックを繰り返し与えることで「書くこと」への抵抗を少なくし、意欲を喚起する指導を行うことが大切である。例えば、海外に送る学校紹介の絵はがきやビデオ、Speech や Show and Tell などの原稿の作成を通して、一つのトピックについて複数の英文を用いて伝える活動が必要である。また、Speaking Test や Writing Test で「情報量」を評価することも必要である。

